

平成二十五年法律第百八号

特定秘密の保護に関する法律

目次

- 第一章 総則(第一条・第二条)
- 第二章 特定秘密の指定等(第三条―第五条)
- 第三章 特定秘密の提供(第六条―第十条)
- 第四章 特定秘密の取扱者の制限(第十一条)
- 第五章 適性評価(第十二条―第十七条)
- 第六章 雑則(第十八条―第二十一条)
- 第七章 罰則(第二十三条―第二十七条)

第一章 総則

(目的)

第一条 この法律は、国際情勢の複雑化に伴い我が国及び国民の安全の確保に係る情報の重要性が増大するとともに、デジタル社会の発展に伴いその漏えいの危険性が懸念される中で、我が国の安全保障(国の存立に関わる外部からの侵略等)に対して国家及び国民の安全を保障することをいう。以下同じ。)に関する情報のうち特に秘匿することが必要であるものについて、これを適確に保護する体制を確立した上で収集し、整理し、及び活用することが重要であることに鑑み、当該情報の保護に関し、特定秘密の指定及び取扱者の制限その他の必要な事項を定めることにより、その漏えいの防止を図り、もって我が国及び国民の安全の確保に資することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「行政機関」とは、次に掲げる機関をいう。

- 一 法律の規定に基づき内閣に置かれる機関(内閣府を除く。)及び内閣の所轄の下に置かれる機関
- 二 内閣府、宮内庁並びに内閣府設置法(平成十一年法律第八十九号)第四十九条第一項及び第二項に規定する機関(これらの機関のうち、国家公安委員会にあっては警察庁を、第四号の政令で定める機関が置かれる機関にあっては当該政令で定める機関を除く。)
- 三 国家行政組織法(昭和二十三年法律第二百一十号)第三条第二項に規定する機関(第五号の政令で定める機関が置かれる機関にあっては、当該政令で定める機関を除く。)
- 四 内閣府設置法第三十九条及び第五十五条並びに宮内庁法(昭和二十二年法律第七十号)第十六条第二項の機関並びに内閣府設置法第

- 四十条及び第五十六条(宮内庁法第十八条第一項において準用する場合を含む。)の特別の機関で、警察庁その他政令で定めるもの
- 五 国家行政組織法第八十条の二の施設等機関及び同法第八十条の三の特別の機関で、政令で定めるもの
- 六 会計検査院

第二章 特定秘密の指定等(特定秘密の指定)

第三条 行政機関の長(当該行政機関が合議制の機関である場合にあつては当該行政機関をいひ、前条第四号及び第五号の政令で定める機関(合議制の機関を除く。))にあってはその機関ごとに政令で定める者をいう。第十一条第一号を除き、以下同じ。)は、当該行政機関の所掌事務に係る別表に掲げる事項に関する情報であつて、公になつていないもののうち、その漏えいが我が国の安全保障に著しい支障を与えるおそれがあるため、特に秘匿することが必要であるもの(日米相互防衛援助協定等に伴う秘密保護法(昭和二十九年法律第六十六号)第一条第三項に規定する特別防衛秘密に該当するものを除く。)を特定秘密として指定するものとする。ただし、内閣総理大臣が第十八条第二項に規定する者の意見を聴いて政令で定める行政機関の長については、この限りでない。

2 行政機関の長は、前項の規定による指定(附則第五条を除き、以下単に「指定」という。)をしたときは、政令で定めるところにより指定に関する記録を作成するとともに、当該指定に係る特定秘密の範囲を明らかにするため、特定秘密である情報について、次の各号のいずれかに掲げる措置を講ずるものとする。

- 一 政令で定めるところにより、特定秘密である情報を記録する文書、図画、電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録をいう。以下この号において同じ。)若しくは物件又は当該情報を化体する物件に特定秘密の表示(電磁的記録にあっては、当該表示の記録を含む。)をすること。
- 二 特定秘密である情報の性質上前号に掲げる措置によることが困難である場合において、政令で定めるところにより、当該情報が前項の規定の適用を受ける旨を当該情報を取り扱う者に通知すること。

て、当該情報について同項第一号に掲げる措置を講ずることができることとなつたときは、直ちに当該措置を講ずるものとする。

(指定の有効期間及び解除)

第四条 行政機関の長は、指定をするときは、当該指定の日から起算して五年を超えない範囲内においてその有効期間を定めるものとする。

2 行政機関の長は、指定の有効期間(この項の規定により延長した有効期間を含む。)が満了する時において、当該指定をした情報が前条第一項に規定する要件を満たすときは、政令で定めるところにより、五年を超えない範囲内においてその有効期間を延長するものとする。

3 指定の有効期間は、通じて三十年を超えることができない。

4 前項の規定にかかわらず、政府の有するその諸活動を国民に説明する責務を全うする観点に立つても、なお指定に係る情報を公にしないことが現に我が国及び国民の安全を確保するためにはやむを得ないものであることについて、その理由を示して、内閣の承認を得た場合(行政機関が会計検査院であるときを除く。)は、行政機関の長は、当該指定の有効期間を、通じて三十年を超えて延長することができる。ただし、次の各号に掲げる事項に関する情報を除き、指定の有効期間は、通じて六十年を超えることができない。

- 一 武器、弾薬、航空機その他の防衛の用に供する物(船舶を含む。別表第一号において同じ。)
- 二 現に行われている外国(本邦の域外にある国又は地域をいう。以下同じ。)の政府又は国際機関との交渉に不利益を及ぼすおそれのある情報
- 三 情報収集活動の手法又は能力
- 四 人的情報源に関する情報
- 五 暗号
- 六 外国の政府又は国際機関から六十年を超えて指定を行うことを条件に提供された情報
- 七 前各号に掲げる事項に関する情報に準ずるもので政令で定める重要な情報

7 行政機関の長は、指定をした情報が前条第一項に規定する要件を欠くに至つたときは、有効期間内であっても、政令で定めるところにより、速やかにその指定を解除するものとする。(特定秘密の保護措置)

第五節 行政機関の長は、指定をしたときは、

第三条第二項に規定する措置のほか、

第十一条の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができることとされる者のうちから、

当該行政機関において当該指定に係る特定秘密の取扱いの業務を行わせる職員

の範囲を定めることその他の当該特定秘密の保護に関し必要なものとして政令で定める措置を講ずるものとする。

警察庁長官は、指定をした場合において、

当該指定に係る特定秘密(第七条第一項の規定により提供するものを除く。)

で都道府県警察が保有するものがあるときは、

当該都道府県警察に対し当該指定をした旨を通知するものとする。

前項の場合において、

警察庁長官は、都道府県警察が保有する特定秘密の取扱いの業務を行わせる職員

の範囲その他の当該都道府県警察による当該特定秘密の保護に関し必要なものとして政令で定める事項について、

当該都道府県警察に指示するものとする。

この場合において、

当該都道府県警察の警視總監又は道府県警察本部長(以下「警察本部長」という。)は、

当該指示に従い、

当該特定秘密の適切な保護のために必要な措置を講じ、

及びその職員に当該特定秘密の取扱いの業務を行わせるものとする。

行政機関の長は、

指定をした場合において、

その所掌事務のうち別表に掲げる事項に係るものを遂行するために

特設の必要があると認めるときは、

物件の製造又は役務の提供を業とする者で、

特定秘密の保護のために必要な施設設備を設置していることその他

政令で定める基準に適合するもの(以下「適合事業者」という。)

との契約に基づき、

当該適合事業者に対し、

当該指定をした旨を通知した上で、

当該指定に係

るものとする。

行政機関の長は、

指定をした場合において、

その所掌事務のうち別表に掲げる事項に係るものを遂行するために

特設の必要があると認めるときは、

物件の製造又は役務の提供を業とする者で、

特定秘密の保護のために必要な施設設備を設置していることその他

政令で定める基準に適合するもの(以下「適合事業者」という。)

との契約に基づき、

当該適合事業者に対し、

当該指定をした旨を通知した上で、

当該指定に係

る特定秘密（第八条第一項の規定により提供されるものを除く。）を保有させることができる。

5 前項の契約には、第十一条の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができることとされる者のうちから、同項の規定により特定秘密を保有する適合事業者が指名して当該特定秘密の取扱いの業務を行わせる代表者、代理人、使用人その他の従業者（以下単に「従業者」という。）の範囲その他の当該適合事業者による当該特定秘密の保護に関し必要なものとして政令で定める事項について定めるものとする。

6 第四項の規定により特定秘密を保有する適合事業者は、同項の契約に従い、当該特定秘密の適切な保護のために必要な措置を講じ、及びその従業者に当該特定秘密の取扱いの業務を行わせるものとする。

第三章 特定秘密の提供
（我が国の安全保障上の必要による特定秘密の提供）

第六條 特定秘密を保有する行政機関の長は、他の行政機関が我が国の安全保障に関する事務のうち別表に掲げる事項に係るものを遂行するため当該特定秘密を利用する必要があると認めるときは、当該他の行政機関に当該特定秘密を提供することができる。ただし、当該特定秘密を保有する行政機関以外の行政機関の長が当該特定秘密について指定をしているとき（当該特定秘密が、この項の規定により当該保有する行政機関の長から提供されたものである場合を除く。）は、当該指定をしている行政機関の長の同意を得なければならない。

2 前項の規定により他の行政機関に特定秘密を提供する行政機関の長は、当該特定秘密の取扱いの業務を行わせる職員が当該他の行政機関の長から提供されたものである場合を除く。）は、当該指定をしている行政機関の長の同意を得なければならない。

3 第一項の規定により特定秘密の提供を受ける他の行政機関の長は、前項の規定による協議に従い、当該特定秘密の適切な保護のために必要な措置を講じ、及びその職員に当該特定秘密の取扱いの業務を行わせるものとする。

第七條 警察庁長官は、警察庁が保有する特定秘密に係るものを遂行するために都道府県警察にこれを利用させる必要があると認めるとき

は、当該都道府県警察に当該特定秘密を提供することができる。

2 前項の規定により都道府県警察に特定秘密を提供する場合については、第五条第三項の規定を準用する。

3 警察庁長官は、警察本部長に対し、当該都道府県警察が保有する特定秘密で第五条第二項の規定による通知に係るものの提供を求めることができる。

第八條 特定秘密を保有する行政機関の長は、その所掌事務のうち別表に掲げる事項に係るものを遂行するために、適合事業者が当該特定秘密を利用させるための契約があると認めるときは、当該適合事業者との契約に基づき、当該適合事業者が当該特定秘密を提供することができる。ただし、当該特定秘密を保有する行政機関以外の行政機関の長が当該特定秘密について指定をしているとき（当該特定秘密が、第六条第一項の規定により当該保有する行政機関の長から提供されたものである場合を除く。）は、当該指定をしている行政機関の長の同意を得なければならない。

2 前項の契約については第五条第五項の規定より、前項の規定により特定秘密の提供を受ける適合事業者については同条第六項の規定を、それぞれ準用する。この場合において、同条第五項中「前項」とあるのは「第八條第一項」と、「を保有する」とあるのは「の提供を受ける」と読み替えるものとする。

3 第五条第四項の規定により適合事業者に特定秘密を保有させている行政機関の長は、同項の契約に基づき、当該適合事業者に対し、当該特定秘密の提供を求めることができる。

第九條 特定秘密を保有する行政機関の長は、その所掌事務のうち別表に掲げる事項に係るものを遂行するために必要があると認めるときは、外国の政府又は国際機関であつて、この法律の規定により行政機関が当該特定秘密を保護するために講ずることとされる措置に相当する措置を講じているものに当該特定秘密を提供することができる。ただし、当該特定秘密を保有する行政機関以外の行政機関の長が当該特定秘密について指定をしているとき（当該特定秘密が、第六条第一項の規定により当該保有する行政機関の長から提供されたものである場合を除く。）は、当該指定をしている行政機関の長の同意を得なければならない。

（その他公益上の必要による特定秘密の提供）
第十條 第四項後段に規定するもののほか、行政機関の長は、次に掲げる場合に限り、特定秘密を提供するものとする。

一 特定秘密の提供を受ける者が次に掲げる業務又は公益上特に必要があると認められるこれらに準ずる業務において当該特定秘密を利用する場合（次号から第四号までに掲げる場合を除く。）であつて、当該特定秘密を利用し、又は知る者の範囲を制限すること、当該業務以外に当該特定秘密が利用されないようにすることその他の当該特定秘密を利用し、又は知る者がこれを保護するために必要なものとして、イに掲げる業務にあつては附則第十條の規定に基づいて国会において定める措置、イに掲げる業務以外の業務にあつては政令で定める措置を講じ、かつ、我が国の安全保障に著しい支障を及ぼすおそれがないと認めるとき。

イ 各議院又は各議院の委員会若しくは参議院の調査会が国会法（昭和二十二年法律第七十九号）第四百四條第一項（同法第五十四條の四第一項において準用する場合を含む。）又は議院における証人の宣誓及び証言等に関する法律（昭和二十二年法律第二百二十五号）第一条の規定により行う審査又は調査であつて、国会法第五十二條第二項（同法第五十四條の四第一項において準用する場合を含む。）又は第六十二條の規定により公開しないこととされたもの

ロ 刑事事件の捜査又は公訴の維持であつて、刑事訴訟法（昭和二十三年法律第三十一号）第三十六條の二十七第一項（同法第三項及び同法第三百六十七條の二十八第二項において準用する場合を含む。）の規定により裁判所に提示する場合のほか、当該捜査又は公訴の維持に必要な業務に従事する者以外の者に当該特定秘密を提供することがないと認められるもの

二 民事訴訟法（平成八年法律第九号）第二百二十三條第六項の規定により裁判所に提示する場合

三 情報公開・個人情報保護審査会設置法（平成十五年法律第六十号）第九條第一項の規定により情報公開・個人情報保護審査会に提示する場合

四 会計検査院法（昭和二十二年法律第七十三号）第十九條の四において読み替えて準用する情報公開・個人情報保護審査会設置法第九條第一項の規定により会計検査院情報公開・個人情報保護審査会に提示する場合

2 警察本部長は、第七條第三項の規定による求めに応じて警察庁に提供する場合のほか、前項第一号に掲げる場合（当該警察本部長が提供しようとする特定秘密が同号ロに掲げる業務において利用するものとして提供を受けたものである場合以外の場合にあつては、同号ロに規定する我が国の安全保障に著しい支障を及ぼすおそれがないと認められること）について、警察庁長官の同意を得た場合に限る。）同項第二号に掲げる場合又は都道府県の保有する情報の公開を請求する住民等の権利について定める当該都道府県の条例（当該条例の規定による諮問に応じて審議を行う都道府県の機関の設置について定める都道府県の条例を含む。）の規定で情報公開・個人情報保護審査会設置法第九條第一項の規定に相当するものにより当該機関に提示する場合に限り、特定秘密を提供することができる。

3 適合事業者は、第八條第三項の規定による求めに応じて行政機関に提供する場合のほか、第一項第一号に掲げる場合（同号に規定する我が国の安全保障に著しい支障を及ぼすおそれがないと認められること）について、当該適合事業者が提供しようとする特定秘密について指定をした行政機関の長の同意を得た場合に限る。）又は同項第二号若しくは第三号に掲げる場合に限り、特定秘密を提供することができる。

第四條 特定秘密の取扱者の制限
第十一條 特定秘密の取扱いの業務は、当該業務を行わせる行政機関の長若しくは当該業務を行わせる適合事業者が当該特定秘密を保有させ、若しくは提供する行政機関の長又は当該業務を行わせる警察本部長が直近に実施した次条第一項又は第十五條第一項の適性評価（第十三條第一項（第十五條第二項において準用する場合を含む。）の規定による通知があつた日から五年を経過していないものに限る。）において特定秘密の取扱いの業務を行った場合にこれを漏らすおそれがないと認められた者（次条第一項第三号又は第十五條第一項第三号に掲げる者として次条第三項又は第十五條第二項における読み替えて準用する次条第三項の規定による告知があつた者を除く。）でなければ、行つてはなら

ない。ただし、次に掲げる者については、次条
第一項又は第十五条第一項の適性評価を受ける
ことを要しない。

一 行政機関の長

二 国務大臣（前号に掲げる者を除く。）

三 内閣官房副長官

四 内閣総理大臣補佐官

五 副大臣

六 大臣政務官

七 前各号に掲げるもののほか、職務の特性そ
の他の事情を勘案し、次条第一項又は第十五
条第一項の適性評価を受けることなく特定秘
密の取扱いの業務を行うことができるものと
して政令で定める者

第五章 適性評価

（行政機関の長による適性評価の実施）

第十二条 行政機関の長は、政令で定めるところ
により、次に掲げる者について、その者が特定
秘密の取扱いの業務を行った場合にこれを漏ら
すおそれがないことについての評価（以下「適
性評価」という。）を実施するものとする。

一 当該行政機関の職員（当該行政機関が警察
庁である場合にあつては、警察本部長を含
む。次号において同じ。）又は当該行政機関
との第五条第四項若しくは第八条第一項の契
約（次号において単に「契約」という。）に
基づき特定秘密を保有し、若しくは特定秘密
の提供を受ける適合事業者の従業者として特
定秘密の取扱いの業務を新たにすることが見
込まれることとなつた者（当該行政機関の長
がその者について直近に実施して次条第一項
の規定による通知をした日から五年を経過し
ていない適性評価において、特定秘密の取扱
いの業務を行った場合にこれを漏らすおそれ
がないと認められたいものを除く。）
二 当該行政機関の職員又は当該行政機関との
契約に基づき特定秘密を保有し、若しくは特
定秘密の提供を受ける適合事業者の従業者と
して、特定秘密の取扱いの業務を現に行い、
かつ、当該行政機関の長がその者について直
近に実施した適性評価に係る次条第一項の規
定による通知があつた日から五年を経過した
日以後特定秘密の取扱いの業務を引き続き行
うことが見込まれる者
三 当該行政機関の長が直近に実施した適性評
価において特定秘密の取扱いの業務を行った

場合にこれを漏らすおそれがないと認められ
た者であつて、引き続き当該おそれがないと
認めることについて疑いを生じさせる事情が
あるもの

2 適性評価は、適性評価の対象となる者（以下
「評価対象者」という。）について、次に掲げる
事項についての調査を行い、その結果に基づき
実施するものとする。

一 特定有害活動（公になつていない情報のう
ちその漏えいが我が国の安全保障に支障を与
えるおそれがあるものを取得するための活
動、核兵器、軍用の化学製剤若しくは細菌製
剤若しくはこれらの散布のための装置若しく
はこれらを運搬することができるロケット若
しくは無人航空機又はこれらの開発、製造、
使用若しくは貯蔵のために用いられるおそれ
が特に大きいと認められる物を輸出し、又は
輸入するための活動その他の活動であつて、
外国の利益を図る目的で行われ、かつ、我が
国及び国民の安全を著しく害し、又は害す
おそれのあるものをいう。別表第三号におい
て同じ。）及びテロリズム（政治上その他の
主義主張に基づき、国家若しくは他人にこれ
を強要し、又は社会に不安若しくは恐怖を与
える目的で人を殺傷し、又は重要な施設その
他の物を破壊するための活動をいう。同表第
四号において同じ。）との関係に関する事項
（評価対象者の家族（配偶者（婚姻の届出を
していないが、事実上婚姻関係と同様の事情
にある者を含む。以下この号において同じ。）、
父母、子及び兄弟姉妹並びにこれらの者以
外の配偶者の父母及び子をいう。以下この号
において同じ。）及び同居人（家族を除く。）
の氏名、生年月日、国籍（過去に有していた
国籍を含む。）及び住所を含む。）
二 犯罪及び懲戒の経歴に関する事項
三 情報取扱いに係る非違の経歴に関する
事項
四 薬物の濫用及び影響に関する事項
五 精神疾患に関する事項
六 飲酒についての節度に関する事項
七 信用状態その他の経済的な状況に関する
事項
3 適性評価は、あらかじめ、政令で定めるとこ
ろにより、次に掲げる事項を評価対象者に対し
告知した上で、その同意を得て実施するものと
する。

一 前項各号に掲げる事項について調査を行
う旨
二 前項の調査を行うため必要な範囲内におい
て、次項の規定により質問させ、若しくは資
料の提出を求めさせ、又は照会して報告を求
めることがある旨
三 評価対象者が第一項第三号に掲げる者であ
るときは、その旨

4 行政機関の長は、第二項の調査を行うため必
要な範囲内において、当該行政機関の職員に評
価対象者若しくは評価対象者の知人その他の関
係者に質問させ、若しくは評価対象者に対し資
料の提出を求めさせ、又は公務所若しくは公私
の団体に照会して必要な事項の報告を求めら
れることとする。

第十三条 行政機関の長は、適性評価を実施した
ときは、その結果を評価対象者に対し通知する
ものとする。
2 行政機関の長は、適合事業者の従業者につ
いて適性評価を実施したときはその結果を、当該
従業者が前条第三項の同意をしなかつたことに
より、適性評価が実施されなかつたこと
を、それぞれ当該適合事業者に対し通知するも
のとする。
3 前項の規定による通知を受けた適合事業者
は、当該評価対象者が当該適合事業者の指揮命
令の下に労働する派遣労働者（労働者派遣事業
の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等
に関する法律（昭和六十年法律第八十八号）第二
条第二号に規定する派遣労働者をいう。第十六
条第二項において同じ。）であるときは、当該
通知の内容を当該評価対象者を雇用する事業主
に対し通知するものとする。
4 行政機関の長は、第一項の規定により評価対
象者に対し特定秘密の取扱いの業務を行った場
合にこれを漏らすおそれがないと認められな
かつた旨を通知するときは、適性評価の円滑な実
施の確保を妨げない範囲内において、当該おそ
れがないと認められなかつた理由を通知するも
のとする。ただし、当該評価対象者があらかじ
め当該理由の通知を希望しない旨を申し出た場
合は、この限りでない。

第十四条 評価対象者は、前条第一項の規定によ
り通知された適性評価の結果その他当該評価対
象者について実施された適性評価について、書

面で、行政機関の長に対し、苦情の申出をする
ことができる。
2 行政機関の長は、前項の苦情の申出を受けた
ときは、これを誠実に処理し、処理の結果を苦
情の申出をした者に通知するものとする。

3 評価対象者は、第一項の苦情の申出をしたこ
とを理由として、不利益な取扱いを受けない。
（警察本部長による適性評価の実施等）

第十五条 警察本部長は、政令で定めるところに
より、次に掲げる者について、適性評価を実施
するものとする。
一 当該都道府県警察の職員（警察本部長を除
く。次号において同じ。）として特定秘密の
取扱いの業務を新たにすることが見込まれる
こととなつた者（当該警察本部長がその者
について直近に実施して次項において準用する
第十三条第一項の規定による通知をした日か
ら五年を経過していない適性評価において、
特定秘密の取扱いの業務を行った場合にこれ
を漏らすおそれがないと認められた者であつ
て、引き続き当該おそれがないと認められる
ものを除く。）
二 当該都道府県警察の職員として、特定秘密
の取扱いの業務を現に行い、かつ、当該警察
本部長がその者について直近に実施した適性
評価に係る次項において準用する第十三条第
一項の規定による通知があつた日から五年を
経過した日以後特定秘密の取扱いの業務を引
き続き行うことが見込まれる者
三 当該警察本部長が直近に実施した適性評価
において特定秘密の取扱いの業務を行った場
合にこれを漏らすおそれがないと認められた
者であつて、引き続き当該おそれがないと認
めることについて疑いを生じさせる事情があ
るもの
2 前三条（第十二条第一項並びに第十三条第二
項及び第三項を除く。）の規定は、前項の規定
により警察本部長が実施する適性評価につ
いて準用する。この場合において、第十二条第三項
第三号中「第一項第三号」とあるのは、「第十
五条第一項第三号」と読み替えるものとする。
（適性評価に関する個人情報利用及び提供の
制限）
第十六条 行政機関の長及び警察本部長は、特定
秘密の保護以外の目的のために、評価対象者が
第十二条第三項（前条第二項において読み替え
て準用する場合を含む。）の同意をしなかつた

こと、評価対象者についての適性評価の結果その他の適性評価の実施に当たって取得する個人情報（生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）をいう。以下この項において同じ。）を自ら利用し、又は提供してはならない。ただし、適性評価の実施によつて、当該個人情報に係る特定の個人が国家公務員法（昭和二十二年法律第二十号）第三十八条各号、同法第七十五条第二項に規定する人事院規則で定めらるる事由、同法第七十八条各号、第七十九条各号若しくは第八十二条第一項各号、検察庁法（昭和二十二年法律第六十一号）第二十条第一項各号、外務公務員法（昭和二十七年法律第四十一号）第七條第一項に規定する者、自衛隊法（昭和二十九年法律第六十五号）第三十八條第一項各号、第四十二條各号、第四十三條各号若しくは第四十六條第一項各号、同法第四十八條第一項に規定する場合若しくは同条第二項各号若しくは第三項各号若しくは地方公務員法（昭和二十五年法律第二百六十一号）第六條各号、第二十八條第一項各号若しくは第十二條各号若しくは第二十九條第一項各号又はこれらに準ずるものとして政令で定めらるる事由のいずれかに該当する疑いが生じたときは、この限りでない。

2 適合事業者及び適合事業者の指揮命令の下に労働する派遣労働者を雇用する事業主は、特定秘密の保護以外の目的のために、第十三條第二項又は第三項の規定により通知された内容を自ら利用し、又は提供してはならない。

（権限又は事務の委任）

第十七條 行政機関の長は、政令（内閣の所轄の下に置かれる機関及び会計検査院にあつては、当該機関の命令）で定めるところにより、この章に定める権限又は事務を当該行政機関の職員に委任することができる。

第六章 雑則

（特定秘密の指定等の運用基準等）

第十八條 政府は、特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施に関し、統一的な運用を図るための基準を定めるものとする。

2 内閣総理大臣は、前項の基準を定め、又はこれを変更しようとするときは、我が国の安全保

障に関する情報の保護、行政機関等の保有する情報の公開、公文書等の管理等に関し優れた識見を有する者の意見を聴いた上で、その案を作成し、閣議の決定を求めなければならない。

3 内閣総理大臣は、毎年、第一項の基準に基づく特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施の状況を前項に規定する者に報告し、その意見を聴かなければならない。

4 内閣総理大臣は、特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施の状況に関し、その適正を確保するため、第一項の基準に基づいて内閣を代表して行政各部を指揮監督するものとする。この場合において、内閣総理大臣は、特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施が当該基準に従つて行われていることを確保するため、必要があると認めるときは、行政機関の長（会計検査院を除く。）に対し、特定秘密である情報を含む資料の提出及び説明を求め、並びに特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施について改善すべき旨の指示をすることができる。

（国会への報告等）

第十九條 政府は、毎年、前条第三項の意見を付して、特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施の状況について国会に報告するとともに、公表するものとする。

（関係行政機関の協力）

第二十條 関係行政機関の長は、特定秘密の指定、適性評価の実施その他この法律の規定により講ずることとされる措置に関し、我が国の安全保障に関する情報のうち特に秘匿することが必要であるものの漏えいを防止するため、相互に協力するものとする。

（政令への委任）

第二十一條 この法律に定めるもののほか、この法律の実施のための手続その他この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。

（この法律の解釈適用）

第二十二條 この法律の適用に当たつては、これを拡張して解釈して、国民の基本的人権を不当に侵害するようなことがあつてはならず、国民の知る権利の保障に資する報道又は取材の自由十分に配慮しなければならない。

2 出版又は報道の業務に従事する者の取材行為については、専ら公益を図る目的を有し、かつ、法令違反又は著しく不当な方法によるものと認められない限りは、これを正当な業務による行為とするものとする。

第七章 罰則

第二十三條 特定秘密の取扱いの業務に従事する者がその業務により知得した特定秘密を漏らしたときは、十年以下の懲役に処し、又は情状により十年以下の懲役及び千円以下の罰金に処する。特定秘密の取扱いの業務に従事しなくなつた後においても、同様とする。

2 第四條第五項、第九條、第十條又は第十八條第四項後段の規定により提供された特定秘密について、当該提供の目的である業務により当該特定秘密を知得した者がこれを漏らしたときは、五年以下の懲役に処し、又は情状により五年以下の懲役及び五百万円以下の罰金に処する。第十條第一項第一号ロに規定する場合において提示された特定秘密について、当該特定秘密の提示を受けた者がこれを漏らしたときも、同様とする。

3 前二項の罪の未遂は、罰する。

4 過失により第一項の罪を犯した者は、二年以下の禁錮又は五十万円以下の罰金に処する。

5 過失により第二項の罪を犯した者は、一年以下の禁錮又は三十万円以下の罰金に処する。

第二十四條 外国の利益若しくは自己の不正の利益を図り、又は我が国の安全若しくは国民の生命若しくは身体を害すべき用途に供する目的で、人を欺き、人に暴行を加え、若しくは人を脅迫する行為により、又は財物の窃取若しくは損壊、施設への侵入、有線電気通信の傍受、不正アクセス行為（不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成十一年法律第二百二十八号）第二條第四項に規定する不正アクセス行為をいう。）その他の特定秘密を保有する者の管理を害する行為により、特定秘密を取得した者は、十年以下の懲役に処し、又は情状により十年以下の懲役及び千円以下の罰金に処する。

2 前項の罪の未遂は、罰する。

3 前二項の規定は、刑法（明治四十年法律第四十五号）その他の罰則の適用を妨げない。

第二十五條 第二十三條第一項又は前条第一項に規定する行為の遂行を共謀し、教唆し、又は煽動した者は、五年以下の懲役に処する。

2 第二十三條第二項に規定する行為の遂行を共謀し、教唆し、又は煽動した者は、三年以下の懲役に処する。

第二十六條 第二十三條第三項若しくは第二十四條第二項の罪を犯した者又は前条の罪を犯した者のうち第二十三條第一項若しくは第二項若し

くは第二十四條第一項に規定する行為の遂行を共謀したものが自首したときは、その刑を減輕し、又は免除する。

第二十七條 第二十三條の罪は、日本国外において同条の罪を犯した者にも適用する。

2 第二十四條及び第二十五條の罪は、刑法第二條の例に従う。

附則 抄

（施行期日）

第一條 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第十八條第一項及び第二項（変更に係る部分を除く。）並びに附則第九條及び第十條の規定は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二條 この法律の公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日の前日までの間においては、第五條第一項及び第五項（第八條第二項において読み替へて準用する場合を含む。以下この条において同じ。）の規定の適用については、第五條第一項中「第十一條の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うこととされることとされる者のうちから、当該行政機関」とあるのは「当該行政機関」と、同条第五項中「第十一條の規定により特定秘密の取扱いの業務を行うことができることとされる者のうちから、同項の」とあるのは「同項の」とし、第十一條の規定は、適用しない。

（施行後五年を経過した日の翌日以後の行政機関）

第三條 この法律の施行の日（以下「施行日」という。）から起算して五年を経過した日の翌日以後における第二條の規定の適用については、同条中「掲げる機関」とあるのは、「掲げる機関（この法律の施行の日以後同日から起算して五年を経過する日までの間、次条第一項の規定により指定された特定秘密（附則第五條の規定により防衛大臣が特定秘密として指定をした情報とみなされる場合における「特定秘密」という。）以下この条において単に「特定秘密」という。）を保有したことがない機関として政令で定めるもの（その請求に基づき、内閣総理大臣が第十八條第二項に規定する者の意見を聴いて、同日後特定秘密を保有する必要がある新たに生じた機関として政令で定めるものを除く。）を除く。」とする。

(政令への委任)
第八条 附則第二条、第三条、第五条及び第六条に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。
 (指定及び解除の適正の確保)

第九条 政府は、行政機関の長による特定秘密の指定及びその解除に関する基準等が真に安全保障に資するものであるかどうかを独立した公正な立場において検証し、及び監察することのできる新たな機関の設置その他の特定秘密の指定及びその解除の適正を確保するために必要な方策について検討し、その結果に基づいて所要の方策を講ずるものとする。

(国会に対する特定秘密の提供及び国会におけるその保護措置の在り方)

第十条 国会に対する特定秘密の提供については、政府は、国会が国権の最高機関であり各議院がその会議その他の手続及び内部の規律に関する規則を定める権能を有することを定める日本国憲法及びこれに基づく国会法等の精神にのっとり、この法律を運用するものとし、特定秘密の提供を受ける国会におけるその保護に関する方策については、国会において、検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附則 (令和三年五月一九日法律第三五号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、令和三年九月一日から施行する。

附則 (令和三年五月一九日法律第三七号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、令和三年九月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第二十七条(住民基本台帳法別表第一から別表第五までの改正規定に限る。)、第四十五条、第四十七条及び第五十五条(行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律別表第一及び別表第二の改正規定(同表の二十七の項の改正規定を除く。))に限る。並びに附則第八条第一項、第五十九条から第六十三条まで、第六十七条及び第七十一条から第七十三条までの規定、公布の日
- 二 及び三 略

四 第十七条、第三十五条、第四十四条、第五十条及び第五十八条並びに次条、附則第三条、第五条、第六条、第七条(第三項を除く。)、第十三条、第十四条、第十八条(戸籍法第百二十九条の改正規定(戸籍の)の下に「正本及び」を加える部分を除く。))に限る。)、第十九条から第二十一条まで、第二十三条、第二十四条、第二十七条、第二十九条(住民基本台帳法第三十条の十五第三項の改正規定を除く。)、第三十条、第三十一条、第三十三条から第三十五条まで、第四十条、第四十二条、第四十四条から第四十六条まで、第四十八条、第五十条から第五十二条まで、第五十三条(行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律第四十五条の二第一項、第五項、第六項及び第九項の改正規定並びに同法第五十二条の三の改正規定を除く。)、第五十五条(がん登録等の推進に関する法律(平成二十五年法律第百十一号)第三十五条の改正規定(二条例を含む。))を削る部分に限る。)、第五十六条、第六十八号及び第六十九号の規定、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において、各規定につき、政令で定める日

(罰則に関する経過措置)

第七十一条 この法律(附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定。以下この条において同じ。))の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)

第七十二条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む。))は、政令で定める。

附則 (令和三年六月一日法律第六一号) 抄

(施行期日)
第一条 この法律は、令和五年四月一日から施行する。

附則 (令和四年五月二五日法律第四八号) 抄

- 一 第一条 この法律は、公布の日から起算して四年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
- 一 第三条の規定並びに附則第六十条中商業登記法(昭和三十八年法律第百二十五号)第五十二条第二項の改正規定及び附則第二百五十二条の規定、公布の日
- (政令への委任)
- 第二百二十五条** この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第三条の規定並びに附則第六十条中商業登記法(昭和三十八年法律第百二十五号)第五十二条第二項の改正規定及び附則第二百五十二条の規定、公布の日

(政令への委任)

第二百二十五条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則 (令和四年六月一七日法律第六八号) 抄

(施行期日)
1 この法律は、刑法等一部改正法施行日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 一 第五百九条の規定、公布の日
- 別表(第三条、第五条―第九条関係)
- 一 防衛に関する事項
- イ 自衛隊の運用又はこれに関する見積り若しくは計画若しくは研究
- ロ 防衛に関し収集した電波情報、画像情報その他の重要な情報
- ハ ロに掲げる情報の収集整理又はその能力防衛力の整備に関する見積り若しくは計画又は研究
- ホ 武器、弾薬、航空機その他の防衛の用に供する物の種類又は数量
- ヘ 防衛の用に供する通信網の構成又は通信の方法
- ト 防衛の用に供する暗号
- チ 武器、弾薬、航空機その他の防衛の用に供する物又はこれらの物の研究開発段階のもの仕様、性能又は使用方法
- リ 武器、弾薬、航空機その他の防衛の用に供する物又はこれらの物の研究開発段階のもの製作、検査、修理又は試験の方法
- 又 防衛の用に供する施設的设计、性能又は内部の用途(へに掲げるものを除く。)
- 二 外交に関する事項
- イ 外国の政府又は国際機関との交渉又は協力の方針又は内容のうち、国民の生命及び身体保護、領域の保全その他の安全保障に関する重要なもの
- ロ 安全保障のために我が国が実施する貨物の輸出若しくは輸入の禁止その他の措置又はその方針(第一号イ若しくは二、第三号イ又は第四号イに掲げるものを除く。)

二 特定有害活動の防止に関する事項

ハ ロに掲げる情報の収集整理又はその能力

テロリズムの防止に関する事項

イ テロリズムによる被害の発生若しくは拡大の防止(以下この号において「テロリズムの防止」という。))のための措置又はこれに関する計画若しくは研究

ロ テロリズムの防止に関し収集した国民の生命及び身体保護に関する重要な情報又は外国の政府若しくは国際機関からの情報

ハ ロに掲げる情報の収集整理又はその能力

テロリズムの防止の用に供する暗号

二 特定有害活動の防止に関する事項

ハ 安全保障に関し収集した国民の生命及び身体保護、領域の保全若しくは国際社会の平和と安全に関する重要な情報又は条約その他の国際約束に基づき保護することが必要な情報(第一号ロ、第三号ロ又は第四号ロに掲げるものを除く。)

二 ハに掲げる情報の収集整理又はその能力

ホ 外務省本省と在外公館との間の通信その他の外交の用に供する暗号

三 特定有害活動の防止に関する事項

イ 特定有害活動による被害の発生若しくは拡大の防止(以下この号において「特定有害活動の防止」という。))のための措置又はこれに関する計画若しくは研究

ロ 特定有害活動の防止に関し収集した国民の生命及び身体保護に関する重要な情報又は外国の政府若しくは国際機関からの情報

ハ ロに掲げる情報の収集整理又はその能力

テロリズムの防止の用に供する暗号

二 特定有害活動の防止に関する事項

イ テロリズムによる被害の発生若しくは拡大の防止(以下この号において「テロリズムの防止」という。))のための措置又はこれに関する計画若しくは研究

ロ テロリズムの防止に関し収集した国民の生命及び身体保護に関する重要な情報又は外国の政府若しくは国際機関からの情報

ハ ロに掲げる情報の収集整理又はその能力

テロリズムの防止の用に供する暗号

二 特定有害活動の防止に関する事項